

# 感染対策クイズ

～今年度の振り返り～

感染対策情報誌 令和8年3月

令和7年4月～令和8年2月までの感染対策情報から各月1問ずつ〇×クイズにしました

このクイズは、日常業務で行っている感染対策を振り返ることを目的としています

解説もあわせて確認し、日々の実践につなげましょう

問題	答え	解説
【第1問】R7年4月 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は、空気感染が主な感染経路である	×	おたふくかぜは、せき・くしゃみの飛沫や、手を介した接触で感染が広がります 空気感染ではありません
【第2問】R7年5月 針刺し・血液体液曝露が起きた場合、まず流水で洗淨することが重要である	○	最初に行うべきは直ちに洗淨することです その後、報告・評価・フォローアップを行います
【第3問】R7年6月 標準予防策は、感染症が疑われる患者にだけ行えばよい	×	標準予防策は、すべての患者の血液・体液には感染性があると考えて、全員に対して行う基本の考え方です
【第4問】R7年7月 患者に直接触れていなくても、患者周囲の環境に触れた後は手指衛生が必要である	○	ベッド柵、イス、ドアノブなどの患者周囲環境も汚染されている可能性があります
【第5問】R7年8月 手に目に見える汚れがある場合でも、アルコール手指消毒で十分である	×	血液や汚れがある場合は、流水と石けんによる手洗いが必要です アルコールは汚れがない時に使います
【第6問】R7年9月 ノロウイルス対策には、流水と石けんによる手洗いが有効である	○	ノロウイルスはアルコールが効きにくい ため、物理的に洗い流す手洗いが重要です
【第7問】R7年10月 同じ手袋を着用したまま、複数の患者対応をしても問題ない	×	手袋の使い回しは交差感染の原因になります 1患者・1処置ごとに交換が原則です
【第8問】R7年11月 血液や体液の飛散が予測される場面では、ガウンの着用が望ましい	○	ガウンは体や衣服を広く覆い、血液・体液の付着を防ぎます。状況に応じてエプロンと使い分けます
【第9問】R7年12月 N95マスクの下にサージカルマスクを着けると、防護性能は高まる	×	N95は顔への密着性が重要です。重ね付けすると密着が悪くなり、防護性能が低下します
【第10問】R8年1月 ドアノブや診察台など、手がよく触れる場所は環境清掃の重点ポイントである	○	多くの人が触れる場所は病原体が付着しやすい ため、清拭清掃を重点的に行います
【第11問】R8年2月 シンク周辺の水跳ねは、見た目がきれいであれば特に拭き取らなくても問題ない	×	見た目がきれいでも、水分が残ると病原体が増えやすくなります。使用後は水分を拭き取り、乾燥させることが感染予防のポイントです



答え、解説を隠して、クイズに挑戦!!  
今日の学びを、明日の実践へ  
できることから、みんなで感染対策を続けていきましょう